

●ペンパル読本決定版

宇宙人と文通しよう

.....武尾世智/著

暗号が敵側に読まれ、司令官の乗機が打ち落された話、南米征服のヨーロッパ人が現地人を捕まえて自国語を教え通訳にした話、こんなコワーい話から本書は始まる。

そして幕末の「解体新書」解説の高野長英の苦労、赤ちゃんの言葉が開かれて行く過程などが長々と述べられる。

宇宙人の電波の解説にどんな問題がどこにあるか、そんな関心で読むと話の意味、関連性が自然に明らかになって行く。逆に関係ない話が続く、まるで詐欺だとイライラ読む読者もあるだろう。

幾何、原子物理、われわれとの共通の知識、関心などに基づいて解説しやすい事項、言語を選んで文を作るというのが研究者の一致した意見だ。

著者武尾氏は天文学を専攻し文明論に関心を持っている研究者だ。征服者の話、本書を詐欺だと思つた読者の話など例として上げられているが、これは宇宙人にかけて文明論の例題として読むのが著者の隠された狙いかなど考えながら一気に読み上げた。

文明論って一般論がなく地上の文明しか扱っていないとか、「日本平和学会」の欧文名称に「SCIENCE」を使うことに反対した人がいたそうだななんて本書と関係のない事柄まで考えさせられた。

紙背、行間にたくさん詰まっている、そして読む人によってはこんなつまらない本はないなどと思つた本であった。

(「数学セミナー」2222年2月号書評より)

森本雅樹【国立天文台】

technology

●グーテンベルクの終焉?

印刷技術と文化

.....活版太郎/著

20世紀末は、印刷物の氾濫に人々が被害を受けた時代である。この結果、「活字中毒」や「活字ばなれ」という社会現象を生み出した。第2次大戦直後は言論、出版の統制が廃止され、また戦時中の空白で人々は出版物に飢えていたから、本や雑誌は飛ぶような売行きで、印刷業も活況を呈したが、今回は様子が違う。印刷物に対する需要と供給の関係が逆転しているのだ。印刷能力が増加して能力過剰となり、過供給になっているのだ。印刷物の増加が文化水準の向上に直結していないのは、出版物のオリジナリティーを見ればすぐ分かる。印刷物の増加は見かけ上のものでしかないのだ。

印刷の歴史は、中国の木版や石版に始まり、道教や仏教の宗教活動に大きな影響を与えた。グーテンベルクによる活版印刷の発明はヨーロッパの知識水準を高めた。今日のコンピュータ製版の技術は新しい技術革新をもたらし、文字はドットに分解され記憶され、ワープロの仮名漢字変換や多くの編集機能は印刷物をより身近かなものとした。これら歴史上の印刷の技術革新は、時代の文化にどのような影響を与えたのかを、長所、短所の両面から分析しなおしてみた。いままで光の部分しか述べられてこなかったからである。

印刷物は文化を伝搬することはしても、それ自体が文化を築くことはない。印刷物の基礎をなすのは原稿である。原稿は創作活動であるから機械化や自動化はできない。知的財産としての印刷物が質・量の両面においてバランスよく発行されることが大切である。

西山 豊【大阪経済大学】

●断章のキ裂のはざまに未来が

ヒストリア・ウルティマ

.....田村一志/著

田村一志【千葉市・26歳】

本書は、20xx年度ノーベル物理学賞・文学賞二部門同時制覇で名高き国立××大学理論物理学教室教授田村一志博士の定年退官記念論文として構想されながら、完成寸前に盗難に遭い5日後研究室の机上で発見された草稿である。破損箇所は、前述の××をはじめ全頁に渉り、宇宙史とそれに続く世界史をアシモフばりの展開で活写した小説部より、超統一理論と数学基礎論を結合させた博士の業績の総決算たる「究極宇宙論」の概要を述べた論文部に特に著しい。失意の博士は集合論が素粒子論と宇宙論の全域を含むという仮説の検証を後進に委ねると宣言し、新興宗教の教祖に転職した。断章を補完するのは誰だ?

●Impossible Dream

我が見果てぬ夢
ピタゴラスからアインシュタインまで

.....林大/編

A5変型・1000頁・10000円

井狩春男【東京都】

故人となった数学者や物理学者の中から、現代に影響を及ぼすと思える学者を100人選び、この世に呼び戻し、死によって中断したままになっていた研究を完成させ、その成果をまとめたのがこの本。

死の半年前までの生活を描いた各人のエッセイが付く。

本書に発表されたアインシュタインの最新の理論は、いま全世界に光明を与えている。

●やぶに入ったら

懐石力学入門

.....ダ・ハミルトニアン/著・日本料理学会/訳

大澤広志【名古屋市】

本書は、大英博物館第三書庫改修作業の際、偶然発見された。18世紀半ば、日本がまだ鎖国をしいており、オランダとのみ交易をしいていた頃、オランダ人の天才コック、ダ・ハミルトニアンは、日本古来の料理を研究するため、はるばる日本へ渡った。当時、高級懐石料理店として名を広めていた「つば六」へ丁稚奉公をすることになった。西欧では、経験しなかつた徒弟制度を身をもって体験するうちに、徒弟間の力関係を数式で表現することを考え出し、一冊にまとめたのが本書。今もって西欧人には、不可解な日本の徒弟制度を分かりやすく表現したものとして、フランス、アメリカでは、ベストセラーになっている。

●おもちゃは大人のものか

おとなのおもちゃセミナー

.....数学セミナー編集部/編

佐藤大五郎【日野市・28歳】

ベーゴマ、竹トンボ、やじろべえなど、今はもうおとなしな知らない、おとなしな遊びのおもちゃを取り上げ、その力学的原理から時代背景まで、丁寧なタッチで読者に語りかける。本書を読むことにより過ぎ去りし日の郷愁にあなを誘う。

注意 次のような類書にご注意下さい。ほんとうのおとなのおもちゃセミナー、通信販売のおもちゃセミナー。

●あなたの「理系」度をチェック

理系大研究

.....日本リサーチ協会/編

古川佑子【東京都】

理科系と区分されている学科の卒業男子3000名弱に調査を実施し、理系に強く現れる特徴「理系らしさ」を抽出しました。これだけ知っていれば、誰からも「あなたは理系出身でしょう」と言われてしまう理科系発想術を伝授。

「理屈っぽい」理詰めの人、「やっぱり3K」汗まみれの人、「世間知らず」空想家、...、その他「計算高いと思われがち」「男色」「沢田聖子」などこぼれ話も収録。来るべき理系ブームのバイブルに。

なおJRAでは、次年度「理系女子大研究」を準備中。